

ムンプス（おたふくかぜ）ワクチンの定期接種化を求める意見書

日本耳鼻咽喉科学会が全国5,565施設の耳鼻咽喉科を対象に実施したムンプスウイルス（流行性耳下腺炎・おたふくかぜ）による難聴に関する調査では、2015～16年の2年間で300人超がムンプス難聴と診断されていることが明らかとなった。

ムンプス難聴とは、おたふくかぜの原因であるムンプスウイルスが内耳に感染し、急性発症する難聴であり、難治性のため聴力のほとんどが奪われてしまうことが多い。

予防接種を受ければ防ぐことができるが、現在、我が国においては任意接種となっており、加えて、接種費用が約6千円と高額なことや、ムンプスワクチンについての啓発が不十分であるため、接種率は対象者の3割程にとどまっている。ムンプスワクチンの定期接種化等により、ムンプスウイルスによって難聴で苦しむ人を減らすことが求められている。

よって、本区議会は、国会及び政府に対し、ムンプスワクチンについての啓発を強化するとともに、副反応についての対策を講じ、早期に定期接種化するよう強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成29年10月25日

江東区議会議長 榎本雄一

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
厚生労働大臣

} あて